

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0672300431		
法人名	オーリンク株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320-6		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 8 日	開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
 基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和4年10月27日	評価結果決定日	令和 4年 11月 9日

# (ユニット名 ひめさゆり)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ご利用者一人ひとりが、役割のある生活を継続出来るように支援している。
- 一般浴での入浴が困難な方には、特殊浴槽(チェアー浴)でゆったりと快適に入浴して頂けるよう支援している。
- 立位歩行が困難な方、運動不足の方、体重管理が必要な方には、リハビリの一環として電動足漕ぎ器具を使用して、下肢筋力を維持出来るよう支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とユニット内に掲示している。前回の反省を生かし、今年度よりユニット会議(月1回)で理念を唱和している。管理者と職員が理念を共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて地域の催し物が中止や参加が難しくなっているが、近所の方から野菜や花等を頂いたりして交流は続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は回覧板等で広報紙等を定期的に回覧していたが、現在はご家族のみに季節毎で発刊している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度からコロナ禍にて開催していない。現在も会議を行うのは難しい状況。2ヶ月に一回、ホームの現状、行事、研修内容の資料を運営推進会議メンバーの方に持参し、ご意見を伺うようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料にて実情をお伝えしている。また、町の取り組みや現状をお聞きしたり、電話でも情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての理解を深める為、研修会を定期的に行っている。 転倒の危険性のある方が数名いらっしゃる為、ご家族の了解のもと、離床センサーを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会を定期的に行っている。特に虐待へつながりやすい不適切な言葉使用が見受けられる時は、その場で注意したり、ユニット会議等で話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修で学習する機会を設けている。現在、利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は、ゆっくり丁寧に説明するよう心がけ、理解が得られるように努めている。また、改定等に関しては、コロナ禍により家族懇談会の開催が難しい為、書面にて説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に電話をする際に意見や要望を伺い、反映させている。玄関に意見箱を設置しているが、認識不足の為か、意見をほとんど頂いていない。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全職員が施設長と面談を行い、意見や提案を聴いてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足の為、残業等の協力を仰いで対処している。早急な人材確保が必要である。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自、学習したい研修があれば、出来るだけ参加出来るよう調整している。また、職員個人に合った研修を勧める事もある。現在、コロナ禍でもある為、外部研修はリモートで参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前はグループホーム交換実習に参加していたが、現在は職員不足もあり、参加していない。メール等で意見や現況報告は行っている。また、他グループホームと電話等で意見交換を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にアセスメントを行い、心配な事や生活の意向等を聴いて把握に努め、不安なく生活が出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立って話を聴き、思いや不安等を受け止め、気持ちに寄り添うことで信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者本人、ご家族の実情や要望から何が必要かを見極め、安心、納得してサービスを利用出来るよう、支援の工夫に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事、掃除等、出来る事を一緒に行うことで、受容と共感の気持ちを持って支援している。ご利用者から教えられる場面もあり、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、職員間で情報を共有している。面会時や電話、1ヶ月の様子等の書面にて、日頃の生活の様子や健康状態を報告している。また、ご家族からも協力を頂きながら、一緒にご本人を支えていく関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、思うような外出が出来ていない。馴染みの床屋、美容室等にも行けていない。コロナの感染状況で、面会もシート越しやガラス越しだったりしている。携帯電話で友人、知人と会話し、交流を続けている方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の会話に耳を傾け、関係性を把握し、食堂の座席配置を決めている。楽しい雰囲気となるように見守りながら、時には職員が仲介し、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は積極的に関わりを持ってはいないが、お会いした際には挨拶をし、近況等を聞いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者から生活の意向や楽しみ等をお聞きし、それに沿うように努めている。意思表示が困難な場合は、わかりやすい言葉でお聞きする等、ご利用者本位に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活のアセスメントシートから生活歴等を把握している。また、ご利用者との会話で昔の思い出話や趣味の話等を引き出せるよう工夫し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状態を確認し、出来る力を見だし、必要な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングを定期的に行い、ご利用者やご家族の生活に対する意向をお聞きした上でケアプランを作成している。また、ユニット会議内で職員から意見やアイデアを出してもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り等で日々の変化や様子を確認、共有している。しかし、実践内容を漠然と記録したり、全員に伝わらず流れが止まってしまうことがある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍により地域行事へ参加はしていない。また、ボランティアの受け入れも行っていない。町の図書館から紙芝居をレンタル利用した事もあった。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前からのかかりつけ医に通院出来るようにしている。受診の際は、身体の状態報告、相談を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。受診後はご家族へ電話で報告している。</p>			
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>非常勤看護師が、週2回健康管理を行っている。また、職員が気付いた事を相談している。緊急時は電話で相談し、診てもらったり、指示を仰いでいる。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は状態を聴取し、情報交換している。退院に向けては、主治医からの説明とサマリーを通して情報を取得し、ホームでの生活についての相談を行う等、日頃から医療機関との関係作りに努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重要事項説明書で説明している。終末期の在り方等もご家族と話し合い、ホームで出来る事も説明し、同意を得ている。10年間程、ターミナルケアを行っていないが、今後実施する可能性も予想される為、都度聞き取りを行っていく。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員より心肺蘇生法やAED使用法の講習を年1回必ず行っていたが、現在はコロナ禍により実施出来ていない。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定し、避難訓練を行っている。全職員が対応出来るよう、毎回担当者を変えて実施している。約3日分の食料と飲料水を常備している。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者が選択出来るような言葉掛けをし、謝意も伝えているが、場面場面で不適切な言葉使いになってしまう時があるので、その都度注意し合っている。また、会議等で職員間の話し合いを行い、再発防止に努めている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での行動や表情を見逃さず、本人の思いを表せるように自己決定の場を作っている。また、決定表出出来ない方には、二者択一で声掛けする等の工夫を行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に出来るだけ添えるよう支援を行っているが、コロナ感染防止対策や職員不足等もあり、止むを得ず職員都合を優先してしまうこともある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、ご本人から選んで頂いている。季節に合った服となるよう、アドバイスする等の支援をしている。ヘアカットは定期的に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、地元の食材や季節の物を取り入れたりしている。食後の後片付けは、職員と一緒にやっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の摂取量、希望、機能に合わせ、お粥や刻み食を提供している。水分も1日1000ml以上を目標にし、生活リズムパターンシートを活用して水分が不足の時は個別に対応している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、見守りをやっている。出来ない方のみ介助し、義歯を使用している方は、夜間に洗浄剤で消毒している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムパターンシートを活用し、排泄の状況を把握している。一人ひとりに合わせた声掛け、定時誘導を行い、パッドの交換回数を減らすように努力している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活リズムパターンシートを活用し、排便状態を把握している。毎朝、牛乳を提供したり、整腸剤を服用する際は水分を多めに摂取して頂いている。また、リハビリ体操で腸の活性化も図っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに合わせた入浴を行いたいが、チェア入浴の順番や職員不足等の理由で希望に添った入浴が出来ない時もある。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ休みたい時に休んで頂き、食後は声掛けも行っている。その日に合わせた空調管理を行い、安心して気持ち良く眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を共有し、薬変更時等は記録や申し送りで全職員に周知している。服薬介助時は、名前・日付・個数を読み上げ、2人の職員で確認している。また、服用するまでその場を離れず、口の中まで確認している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍や職員の体制により、外出する機会が少なくなっているが、敷地内屋外での催し物(七夕会、花火大会、お茶飲み等)で楽しんで頂いている。また、裁縫が出来る方からは、雑巾を縫ったりして頂いている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出希望の対処が難しいところではあるが、ドライブ等、外部との接触を出来るだけ避けた対応で楽しんで頂いている。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は所持されていた方もおられたが、現在は無い。お金の管理や支払い等は職員が行っている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、いつでも出来るように支援している。携帯電話を所持されている方もおり、着信を教えたりして支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるよう、貼り絵作成や花を飾ったりし、生活に季節感を取り入れている。定期的な換気や空間除菌脱臭装置を設置し、感染症予防にも努めている。また、エアコンの使用で居心地良く、快適に過ごせるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアで仲良く会話をされている方やテレビを見て過ごされている方もいるが、一人になりたい方は居室にて静養されている。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>愛用品や馴染みの物を持参されている方もいらっしゃる。衣装ケースや椅子等の配置を考慮し、居室内で居心地良く過ごせるように工夫している。</p>			
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食席に名前を記載し、トイレの表記は大きな文字で分かりやすいように工夫している。日付や曜日が分かるよう、大きく見やすい日めくりカレンダーを設置している。また、ご利用者の動線上には物等は置かないようにしている。</p>			